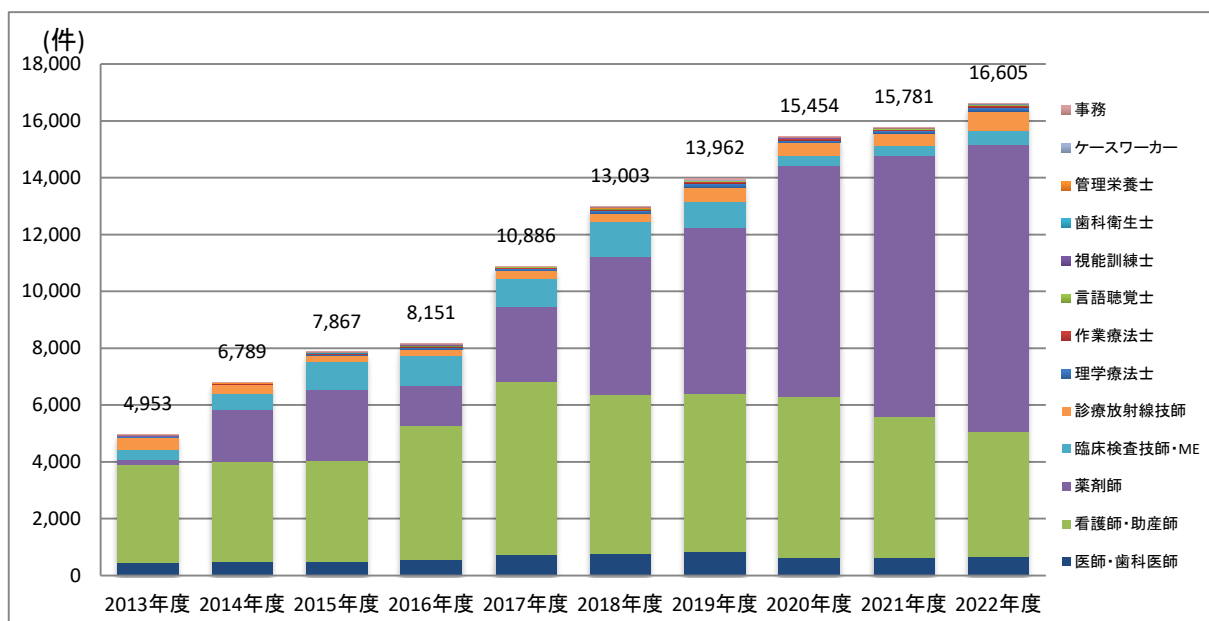


## 安全管理報告における職種別報告件数



職種別報告の内訳は、薬剤師、看護師の報告が上位を占めている。医師の2022年報告率は年間を通して8.5%であったが、当院では総報告数の10%を医師が占めることを目標としている。診療経過で発生した事象について、エラーの有無にかかわらず病院が正確に内容を把握しモニタリングをすることは、医療安全と医療の質向上のために重要なことである。

そのため、以下の23項目に当てはまる事例に対しては積極的な報告を求め情報収集している。

### 【報告すべき23項目】

重篤なアレルギー反応の発生	治療・処置・検査による合併症	入院患者の予定外の緊急手術
合併症による再手術	術中の手術器械の破損	術中・術後の神経麻痺
術後一か月以内の手術部位創感染	院内感染が原因となった死亡や生命に関わる重篤な障害	退院後24時間以内の再入院
薬物有害事象、投薬エラー	入院後の肺塞栓症（PE）の発症	予想以上の大量出血
医療行為による熱傷	組織損傷（注射液の漏出・重度の褥瘡）	手術手技による合併症
生命に関わる麻酔合併症	切除組織の紛失	日帰り手術後の予期せぬ入院
術後24時間以内の再手術	術後、一般病棟帰室後48時間以内のICUへの入室	一般病棟への入室後、24時間以内のICUへの入室
CVC挿入に関わる合併症（気胸・血管損傷）	診断名の変更を伴う術式変更	